

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-72C	14-007	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol drinking and risk of leukemia-a systematic review and meta-analysis of the dose-risk relation. 飲酒と白血病リスク：系統レビューとメタ解析による量・反応関係を探る		
<b>執筆者</b>		
Rota M, Porta L, Pelucchi C, Negri E, Bagnardi V, Bellocco R, Corrao G, Boffetta P, La Vecchia C.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Epidemiol. 2014 Aug;38(4):339-45. doi: 10.1016/j.canep.2014.06.001.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、白血病、量・反応関係、系統レビュー、メタ解析		24986108
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 飲酒と白血病との関連に関し、過去 20 年間にいくつかの（疫学的）研究が行われてきたが、一致した結果を見ていない。そこで我々は系統レビューおよびメタ解析を行い、量・反応関係の定量的分析を試みた。		
<b>方法：</b> 2013 年 8 月までの文献検索により、18 の該当研究を同定した。内訳は症例対照研究 10 件、コホート研究 8 件であり、全体で 7,142 例の白血病患者が対象であった。Random-effect モデル(推定値間の相関を考慮)により、統合された推定値を算出した。非線形 random-effect メタ回帰モデルにて量・反応関係を探索した。白血病の病型により成因が異なる可能性を考慮し、病型別に層別化解析を行った。		
<b>結果：</b> 非飲酒者を基準とした場合、全ての飲酒者、軽度飲酒者（一日当たり 1 drink 以下。注：1drink はアルコール換算 12～13g）、中等～大量飲酒者（一日当たり >1 drink）における全白血病の相対危険度（95%信頼区間）はそれぞれ 0.94（0.85–1.03）、0.90（0.80–1.01）、0.91（0.81–1.02）であった。病型別の解析では全飲酒者の相対危険度は、急性リンパ芽球性白血病 1.47（0.47–4.62）、慢性リンパ性白血病 0.94（0.77–1.15）、急性骨髄性白血病 1.02（0.86–1.21）、慢性骨髄性白血病 0.93（0.75–1.14）であった。飲酒による全白血病の相対危険度を研究地域別にみるとアメリカ 0.84（0.76–0.93）、ヨーロッパ 0.92（0.83–1.01）、アジア 1.32（1.02–1.70）であった。		
<b>結論：</b> 飲酒が白血病のリスクを高めるという所見は得られなかった。一方、軽度飲酒が予防的に作用する可能性（定期的に飲酒者において約 10%リスク低減）が示唆された。		